

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	高齢者生きがいづくり推進事業			事業番号	04-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	保健福祉部	黒石 正幸	介護高齢課高齢者支援担当	佐伯 明	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	1	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり	
		施策展開の方向	2	みんなで支え合う福祉のまちをつくる	
		施策	4	高齢者の地域生活支援の充実	
予算事業名	シルバー人材センター運営助成事業費/趣味の教室開催事業費、 老人クラブ助成事業費/地域介護予防活動支援事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	努力規定がある	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	
関連法令等	老人福祉法第2条、第4条: 基本的理念、老人福祉増進の責務、高齢者等の雇用の安定等に関する法律(シルバー人材センター)				
国・県の計画等	第7期かながわ高齢者保健福祉計画		計画期間	平成30年度～令和2年度	
関連個別計画	第7期伊勢原市高齢者保健福祉計画		計画期間	平成30年度～令和2年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	高齢化が進展する中で、多くの高齢者がその知識や経験を生かして地域を活性化するとともに、地域の支え合い活動の担い手となることが期待されています。 また、地域活動やボランティア活動を通じた仲間づくりや生きがいづくり、健康増進や介護予防の図れる場が求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	高齢者が知識や経験を身近な地域社会で生かし、生きがいを持って暮らしていくため、多様な就業機会やボランティア活動等の社会参加の機会の提供を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	60歳以上の市民				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の社会参加を促進するため、地域における就労やボランティア活動等を支援するシルバー人材センターの運営を支援します。 高齢者の生きがいづくりを推進するため、趣味の教室の開催、老人クラブ活動支援を継続して実施します。 高齢者の社会参加及び介護予防を促進するため、介護支援ボランティアポイント事業の定着・拡大を図ります。 				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	シルバー人材センターの運営支援	継続実施	継続実施	継続実施	
	趣味の教室の開催	趣味の教室に350人の参加	趣味の教室に355人の参加	趣味の教室に360人の参加	
老人クラブの活動支援	老人クラブの会員数2,500人の維持	老人クラブの会員数2,500人の維持	老人クラブの会員数2,500人の維持		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	介護支援ボランティアポイント事業登録者数	—	90人	120人	150人



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	伊勢原市シルバー人材センターや老人クラブへの支援を引き続き実施するとともに、介護支援ボランティアポイント事業について、説明会等を行うことにより周知を図り、登録者数の増加を図ります。				
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施 ● 左記以外				
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者		伊勢原市社会福祉協議会
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先		伊勢原市シルバー人材センター 伊勢原市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容		直営による実施
実施結果	項目		年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	シルバー人材センターの運営支援		継続実施	継続実施	
	趣味の教室の開催		趣味の教室に375人の参加	趣味の教室に346人の参加	
	老人クラブの活動支援		老人クラブの会員数 2,213人	老人クラブの会員数 2,210人	
実施した取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターへの運営支援により、高齢者の就労支援や生きがいづくりの場を確保しました。 ・社会福祉協議会に委託し趣味の教室を9講座実施しました。生きがいづくりや介護予防に取り組みました。 ・老人クラブが1団体増加し、計42団体に補助金を交付しました。 				
目標の達成状況	【指標名】		年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
介護支援ボランティアポイント事業登録者数		—	99人	122人	

年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
事業費合計 (a)		16,483		千円		16,259		千円		0		千円	
内訳	国県支出金 ①	1,022		千円		1,042		千円		0		千円	
	地方債 ②	0		千円		0		千円		0		千円	
	その他特財 ③	90		千円		109		千円		0		千円	
	一般財源 (a)-①-②-③	15,371		千円		15,108		千円		0		千円	
国県支出金の内容		神奈川県高齢者在宅福祉事業費補助金 補助率2/3(老人クラブ) 地域支援事業費の介護予防・日常生活支援事業費(国32.5%、県12.5%)											
コスト	その他特財の内容	受益者負担		●有 ○無		前回の改定時期							
		その他		第1号及び第2号被保険者介護保険料									
人件費	正規職員	0.05	人	426	千円	0.05	人	435	千円	0	人	0	千円
	その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	人件費合計 (b)	0.05	人	426	千円	0.05	人	435	千円	0	人	0	千円
トータルコスト (a)+(b)		16,909		千円		16,694		千円		0		千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	60歳以上の市民		単位	60歳以上の市民		単位					
		対象数	30957		人	31,680		人					
	総事業費／対象数	546		円	527		円						

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	シルバー人材センターは補助金により運営が順調に図られています。また、趣味の教室や老人クラブの活動も活発に行われています。老人クラブの人数は目標値をしまわっているものの、昨年の水準をおおむね維持することができました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	シルバー人材センターの補助金の補助率は、他市と同水準としています。また、老人クラブ活動は、近隣市とブロック活動等の交流により、他市の活動を参考にするなど同等の水準を維持しています。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	本事業を実施することで、高齢者が健康で心豊かに日常生活を営みまた、社会貢献の場を提供することができました。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	介護支援ボランティアポイント事業では、1昨年、活動場所が増えたことによりコストをかけることなく、登録者数を増やすことができました。

↓ 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	本市では65歳以上の高齢者が約26,000人います。人生100年時代を迎え、介護や支援を必要としない高齢者も増加していると認識しています。介護や支援を必要としない高齢者が健康で生きがいを持って生活できるような方策が必要と考えています。また、縦割りの考え方から脱却し共生型社会の仕組み作りが必要であると考えています。
令和2年度の取組方針		現行の事業や支援等は引き続き実施していくとともに、介護支援ボランティアポイント事業については登録者数を増やすことだけでなく、ボランティアに従事する人たちを増やすことに主眼を置いていきます。また、令和2年度は第8期高齢者福祉計画の策定をします。新たな視点での計画策定を目指します。		
所管部長による総評		人生100年時代を迎え、健康寿命を延ばすことが重要です。仕事をリタイアし高齢者となっても健康で生きがいをもって人生を謳歌できるよう、行政でなければできないことを考え、実行していく必要があります。		